

理事長挨拶



学校法人 加計学園 理事長・総長 加計 晃太郎

新型コロナウイルス感染症の世界的流行も収束の兆しを見せ、令和4年度後半からは以前のように学生・教職員の活発な学外活動が行われるようになってきました。本学園では、令和4年度より「1 教育・研究の推進」「2 学生生徒の支援」「3 地域社会との連携」「4 国際化の推進」「5 DX（デジタル・トランスフォーメーション）の推進」「6 ガバナンス体制と内部質保証システム」の6つを柱とする「加計学園ビジョン2026」の実現を目指し、第2期中期計画（2022～2026年）をスタートさせました。各設置校は「加計学園ビジョン2026」に基づき各々の個性を反映したビジョンを策定し、過年度の認証評価結果を踏まえた5カ年の中期計画、そしてこれを達成するための具体的な事業計画を策定しました。この策定に至る迄には、常任理事会で刻々と変わる社会変化に対応するための施策について議論を重ね、学園ビジョンから第2期中期計画そして事業計画までを一連の取組として予算と合わせて策定し、最終的に評議員会での諮問を経て理事会で決議を得るまで1年をかけて決定したものです。

さて、第2期中期計画（2022～2026年）1年目として今年度の事業を展開し、その評価結果がまとまりましたのでご報告いたします。岡山理科大学では、新学長での新しい体制のもと、学生・地域・社会から選ばれる大学を目指して、新たに情報理工学部と生命科学部を設置しました。事務組織では、広報業務を募集広報と大学広報とに区別し、本学と学生との関わり方を広く知ってもらうための動画「オリジナルストーリー」製作を大学広報が担当し、組織的な広報活動を展開しました。倉敷芸術科学大学では論理的・知性的スキルと感性的・直感的スキルを醸成する「A&S（アート&サイエンス）教育プログラム」を開発・展開して知性と感性を兼ね備えた人材の育成に取り組むため、令和6年度の実施を目指し具体的な準備を始めました。千葉科学大学においても新学長での新しい体制のもと、教育の質保証を支える教学マネジメントを機能させ、時代の変化に対応した教育プログラムの充実を図りました。また、令和6年度の機関別認証評価受審に向けて自己点検を実施し課題を把握しました。専門学校及び附属の中学校・高等学校においても各設置校で掲げたビジョンと中期計画の実現に向けた取組を進めました。個々の事業計画に対しては、S（目標以上の成果）・A（目標を達成）・B（目標をほぼ達成）・C（課題が残る）・D（未達・未実施）の5段階で自己評価を行い、ビジョン実現までの進捗状況を確認し、軌道修正が必要なところは次年度以降の事業計画に反映させることとしています。

学園の発展は学生生徒の成長と共にあり、建学の理念である「ひとりひとりの若人が持つ能力を最大限に引き出す」ことを実践するべく教育・研究力にさらに磨きをかけ、教育機関としてのブランド力を一層向上して参りたいと思います。